

秋田駒ヶ岳は 生きている

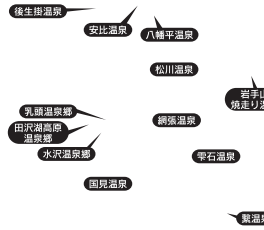
秋田駒ヶ岳は、温泉や素晴らしい景観など火山の恵みをたくさん与えてくれる大切な山です。しかし、一方では、秋田駒ヶ岳はこれからも噴火をするかもしれない活火山でもあるのです。1932(昭和7)年や1970~71(昭和45~46)年の噴火では、幸いなことに大きな被害はありませんでしたが、今後、もし噴火した場合にそなえて「**活火山・秋田駒ヶ岳**」のことをよく知っておくことも大切です。

このマップで想定している噴火規模

秋田駒ヶ岳では、過去約2000年間の噴火で溶岩流・火砕流・火山灰や噴石などが発生しています。このマップは、過去約2000年間の最大規模を参考に、今後も起きる可能性がある噴火を想定したものです。火口は「南部カルデラ」と「北部カルデラ」から代表として3地点を想定しましたが、カルデラ内の他の場所に火口ができる可能性もあります。

想定火口位置	北部カルデラ 中央部に1地点 南部カルデラ 「小岳」と「南西部」の計2点
想定した現象と噴出量	火山灰: 2,600万m ³ (東京ドーム約21杯分) 溶岩流: (北部) 1,400万m ³ (東京ドーム約11杯分) (南部) 8,100万m ³ (東京ドーム約65杯分) 火砕流: (北部) 470万m ³ (東京ドーム約4杯分) (南部) 2,700万m ³ (東京ドーム約22杯分) 噴石距離: 各火口(3地点から)半径2.1km以内

活火山・秋田駒ヶ岳



八幡平一帯には活火山(図中▲)がたくさん分布しており、秋田駒ヶ岳もそのうちのひとつに含まれます。これらの火山地帯は温泉や優れた観光地が多く、一年を通じてたくさんの方が訪れる場所になっています。

秋田駒ヶ岳の活動



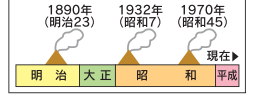
めだけ女岳から溶岩を噴き出した噴火

秋田駒ヶ岳は、最近の100年間に3回ほど噴火をしています。最も新しい噴火は昭和45年(1970年)の噴火で、この噴火では女岳から約3ヶ月間にわたって溶岩を噴き出しました。現在は静穏な状態ですが活火山である以上また噴火することも考えられます。



1970年噴火の溶岩

近年の噴火履歴



近年の噴火状況

噴出した年	噴火の内容
1890~91(明治23~24)年	12月から翌年1月まで噴火(?)。噴動や噴石があったらしいが詳しいことは不明。
1932(昭和7)年	7月21~30日まで南部カルデラで小規模な噴火(水蒸気噴発)。火口列を形成。少量の降灰と泥流あり。樹木の枯死や有毒な火山ガスの発生あり。
1970~71(昭和45~46)年	8月末頃に女岳山頂に噴気孔が形成。9月18日~翌年1月26日まで女岳山頂から噴火。頻りに噴発し溶岩流を少しずつ流出。噴出物総量約170万m ³

火山の恵み

活火山は噴火時に災害をもたらす一方で、静穏時は温泉や美しい景観など、たくさんの方の恵みを私たちに与えてくれます。秋田駒ヶ岳の周辺にもたくさんの方の温泉や素晴らしい景観があり、山の上には多くの高山植物が私たちを出迎えてくれます。



噴火の前ぶれ

揺動・空震
山のほうから揺動が聞こえたり、揺動が伝わってガラス窓の振動音が聞こえる。

落石
火山性地震の震動で、不安定だった石がくずれ落ちてくる。

噴気異常
マグマの上昇で、臭い場所から火山ガスがでたり、いまでもよりガスの量が多くなる。

火山性地震
地下のマグマの動きによって、火山や周辺の震られた場所での地震が起きる。

動物の避難行動
山に住む動物が異常を感じて、山から逃げだす。

地割れ・ひび割れ
マグマの上昇によって山のなかから火山ガスがでたり、ひび割れてきたり、噴煙が多くなる。

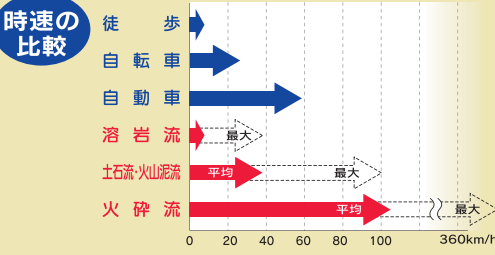
植物が枯れる
マグマの上昇によって、地中から伝わる熱が植物を枯らす。

温泉やわき水の異変
温泉の温度やわき水の量が急に変わったり、新しい温泉が出現する。

湖水・湖水・河川の異常
湖の水の色や濁り、魚が死んだりする。

火山の噴火現象

噴火による災害はいろいろあります。火山から遠く離れていても注意が必要です。



溶岩流



どろどろの溶岩(マグマ)が火口からあふれて流れ出したものです。普通は、速度が遅く、走って逃げる事ができます。溶岩流の通過した場所は全て焼き尽くされ埋められてしまいます。

火砕流



高温の火山灰や岩塊、火山ガスなどが混じり合い斜面を高速(時速数十km)で流れ下ります。高温のガス(火砕サージ)は本体部より速くまで達し大きな被害をもたらす極めて危険な現象です。

噴石・火山弾



噴火により高温の岩石が火口から放出されます。破壊力が大きく火口付近の建物などは容易に破壊されます。時には直径1m以上の岩塊が飛んでくることもあるので、噴火時には火口の近くに近寄ると大変危険です。

火山灰(降灰)



噴火によって火口から放出されます。火山灰は細かいため風に流されて風下側に多く降り積もります。通常は南西風が多いため主に東側に積もると予想されますが、天候や時期によって風向きが異なるため注意が必要です。

土石流・火山泥流



土石流は、火山灰が斜面に堆積して雨が降った場合、雨水が一気に川に集まり発生します。火山泥流は、火砕流や放出された噴石や火砕流の熱により、斜面の雪が融けて発生します。

その他の現象

下に示すような現象が起きることがありますので注意して下さい。

- 地震**: 噴火の前後に大きな地震が起きることがあります。また、地震によって地面が大きく変形したり(地殻変動)することもあります。
- 火山ガス**: 火口から有毒な火山ガスが放出されることがあります。低い場所に溜まりやすいので噴火時にはカルデラ内に入らないでください。
- 山体崩壊**: 極めて稀ですが、地震や噴火が引き金になり山が大きく崩壊することがあります。

噴火と土石流に備えて ~湯沢河川国道事務所の取組み~

秋田駒ヶ岳は、現在は穏やかな状態にあり、火山の恵みである美しい景色や温泉、スキーなどのスポーツを楽しむため多くの人々がこの山を訪れます。しかし、もし火山活動が活発化し噴火が始まると大災害へとつながる可能性もあり、湯沢河川国道事務所では普段から秋田駒ヶ岳の状況について、監視カメラや観測機器を設置し、監視・観測を行っています。さらにその情報を自治体に伝達、提供することで、下流域に暮らす多くの人命・財産を守ります。

秋田駒ヶ岳カメラ映像

ホームページでは、リアルタイムで駒ヶ岳の様子をご覧いただけます。

湯沢河川国道事務所 検索

さほう情報

秋田駒ヶ岳カメラ情報

土石流を防ぐために

土石流は、火山灰が斜面に堆積して水が地面にしみ込みにくい時に雨が降った場合、雨水が一気に川に集まり発生します。

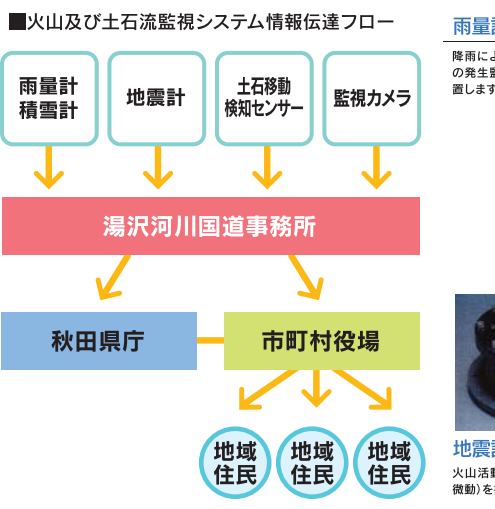
砂防堰堤がないと

土石流は谷から平野に出た所で広がり、被害を大きくします。

砂防堰堤があると

砂防堰堤で土石流を受け止め、その勢いを弱めます。

秋田駒ヶ岳の監視機器の整備を行い、各自治体と連携を図りながら、総合的な土砂災害対策を推進しています。



雨量計

降雨による土石流災害の発生監視を目的に設置します。

火山監視用カメラ

火山活動の情報把握や土砂移動現象を監視します。

積雪計

融雪型火山泥流及び融雪型土砂災害の基礎データを取得します。

ワイヤセンサー

融雪型火山泥流及び融雪型土砂災害、降灰後、降雨による土石流の発生状況を監視します。

秋田駒ヶ岳火山防災ステーション

秋田駒ヶ岳火山防災ステーションは、田沢湖高原にある複合施設「アルパこまぐさ」内にあり、火山活動など緊急時の活動拠点であり、火山・防災情報の収集・発信基地でもあります。また、多くの展示パネルやビデオ映像、立体模型などで、秋田駒ヶ岳の火山防災に関する知識を楽しく学ぶ事ができます。

秋田駒ヶ岳の全てがわかります。

- 監視カメラ映像
- 火山情報ターミナル
- 秋田駒ヶ岳のすがた
- ビデオ映像
- 八幡平山系立体模型

火山活動時の活動拠点施設

火山情報の収集や発信基地

火山・土砂災害等の学習・広報の場

平常時

緊急時

噴火警報発令の場合、平常時の展示空間を現地対策本部として省力、省時間で構成します。可変パネルを使い、簡単に間仕切りを変更できます。

※噴火警報……火山から居住地域の近くまで生命に危険を及ぼす火山活動(噴火)が発生、あるいは発生すると予想される場合、気象庁が発令

アルパこまぐさ

「秋田駒ヶ岳火山防災ステーション」「秋田駒ヶ岳情報センター」「自然ふれあい環境館」がある複合施設で、平成18年6月にオープン。

秋田駒ヶ岳山系砂防出張所

秋田駒ヶ岳火山防災ステーションの一部として平成21年に新設。砂防事業の迅速・円滑な推進を図っています。

国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所

〒012-0862 秋田県湯沢市関口字上寺沢64-2 TEL 0183-73-5544 FAX 0183-72-2164

ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/yuzawa/>

湯沢河川国道事務所 秋田駒ヶ岳山系砂防出張所

〒014-1201 秋田県北上市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-16 TEL 0187-46-2681 FAX 0187-46-2683